

議会質問

梶原ときよし

梶原議員

2021年
12月8日

梶原議員

梶原議員

梶原議員

2021年
12月8日

地価上昇率（近隣久米地区の過去4年間）の2800倍もの課税は許されるのか!!

前年比350%を課税した固定資産税について。

あなたなら許せますか、払いますが。46年間、何の環境変化もな

い農地に突然、前年比3・5倍、

350%課税をされた土地固定資

産税について。市長は世紀の職員

不祥事を謝罪して撤回せよ。

本市職員をして「もはや犯罪行為」と感想する、

本市の市街化区域農地に対する前年比3・5倍

350%課税は、野志市長がどんなにへ理屈を

つけても、絶対にあってはならない愚行にほか

ならない。そもそも固定資産税は、その資産の

価値に着目した財産税であって「適正な時価」

すなわち正常な条件の下に成立する当該不動産

の取引価格であり、客観的な交換価値と解され

る（最高裁判成15年6月26日第一小法廷）から

判断する（**本件** 松山市星岡町3丁目340番の土地

番の土地（1143m²・評価額687万円）から

分筆した同340番1（571m²・評価額1200万円）の土地は、同じ場所にあり、か

ら、市長は世紀の職員が、このままでは

不祥事を謝罪して撤回せよ。

つ面積が2分の1になったにもかかわらず、元

地番の同340番よりも512万円も高い評価

額を設定しており、客観的な交換価値を判断基

準とするなら本市の決定は誰が考えても異常で

あり、誤りである。（本件土地の固定資産税に

関しては所有者より個人情報に関係なく解明

してほしいと同意書が出されます）

（面積が2分の1になったにもかかわらず、元地番の同340番よりも512万円も高い評価額を設定しており、客観的な交換価値を判断基準とするなら本市の決定は誰が考えても異常であります）

理財部長の答弁



固定資産税は、地方税法に基づき、総務大臣が定める固定資産評価基準により評価し、税額を算定することになります。分筆した場合は、土地の間口・奥行き・形状や、接する路線の状況に応じてそれぞれの筆ごとに新たに評価することになります。

したがって、その結果、固定資産税の税額が上がることもあります。

所在地番まで明確にして、その不當性を糾しているのに、全く答えず、一般論で逃げます

ある答弁は計られません。

市長は恥ずかしくないのでしょうか。

上がりとともにあります。

年から委託はありません。

また、市内全体の平均は、前年比で、2017年はマイナス0・9%、2018年はマイナス0・2%、2019年はプラス0・1%、2020年はプラス0・3%です。この期間の久米地区と市内全体の平均上昇率は、ほぼ同じで、前年比で、2017年はマイナス0・5%、2018年はプラス1・0%、2019年はマイナス0・2%、2020年はマイナス0・1%です。

久米地区と市内全体の平均上昇率は、ほぼ同じで、前年比で、2017年はマイナス0・5%、2018年はプラス1・0%、2019年はマイナス0・2%、2020年はマイナス0・1%です。

水準です。

前回の私の質問に対し、市民に15分以上の時間的ロスがあることに対して、「多大な負担ではない」と答えたお上意識丸出しの部長もいたが、市民の利便性を考えない幹部は後進に道をゆずるべきではないか。

市長は質問の意味を理解していないのではないか。

市内の地価公示価格は、ここ4年間で0・7%のマイナスです。

2020年はプラス0・3%です。この期間の久米地区と市内全体の平均上昇率は、ほぼ同じで、前年比で、2017年はマイナス0・5%、2018年はプラス1・0%、2019年はマイナス0・2%、2020年はマイナス0・1%です。

答弁に示されています。

5%、2018年はプラス1・0%、2019年

年から委託はありません。

また、市内全体の平均は、前年比で、2017年はマイナス0・9%、2018年はマイナス0・2%、2019年はプラス0・1%、2020年はプラス0・3%です。この期間の久米地区と市内全体の平均上昇率は、ほぼ同じで、前年比で、2017年はマイナス0・5%、2018年はプラス1・0%、2019年はマイナス0・2%、2020年はマイナス0・1%です。

水準です。

前回の私の質問に対し、市民に15分以上の時間的ロスがあることに対して、「多大な負担ではない」と答えたお上意識丸出しの部長もいたが、市民の利便性を考えない幹部は後進に道をゆずるべきではないか。

市長は質問の意味を理解していないのではないか。

市内の地価公示価格は、ここ4年間で0・7%のマイナスです。

2020年はプラス0・3%です。この期間の久米地区と市内全体の平均上昇率は、ほぼ同じで、前年比で、2017年はマイナス0・5%、2018年はプラス1・0%、2019年はマイナス0・2%、2020年はマイナス0・1%です。

答弁に示されています。

5%、2018年はプラス1・0%、2019年

年から委託はありません。

また、市内全体の平均は、前年比で、2017年はマイナス0・9%、2018年はマイナス0・2%、2019年はプラス0・1%、2020年はプラス0・3%です。この期間の久米地区と市内全体の平均上昇率は、ほぼ同じで、前年比で、2017年はマイナス0・5%、2018年はプラス1・0%、2019年はマイナス0・2%、2020年はマイナス0・1%です。

水準です。

前回の私の質問に対し、市民に15分以上の時間的ロスがあることに対して、「多大な負担ではない」と答えたお上意識丸出しの部長もいたが、市民の利便性を考えない幹部は後進に道をゆずるべきではないか。

市長は質問の意味を理解していないのではないか。

市内の地価公示価格は、ここ4年間で0・7%のマイナスです。

2020年はプラス0・3%です。この期間の久米地区と市内全体の平均上昇率は、ほぼ同じで、前年比で、2017年はマイナス0・5%、2018年はプラス1・0%、2019年はマイナス0・2%、2020年はマイナス0・1%です。

答弁に示されています。

5%、2018年はプラス1・0%、2019年

年から委託はありません。

また、市内全体の平均は、前年比で、2017年はマイナス0・9%、2018年はマイナス0・2%、2019年はプラス0・1%、2020年はプラス0・3%です。この期間の久米地区と市内全体の平均上昇率は、ほぼ同じで、前年比で、2017年はマイナス0・5%、2018年はプラス1・0%、2019年はマイナス0・2%、2020年はマイナス0・1%です。

水準です。

前回の私の質問に対し、市民に15分以上の時間的ロスがあることに対して、「多大な負担ではない」と答えたお上意識丸出しの部長もいたが、市民の利便性を考えない幹部は後進に道をゆずるべきではないか。

市長は質問の意味を理解していないのではないか。

市内の地価公示価格は、ここ4年間で0・7%のマイナスです。

2020年はプラス0・3%です。この期間の久米地区と市内全体の平均上昇率は、ほぼ同じで、前年比で、2017年はマイナス0・5%、2018年はプラス1・0%、2019年はマイナス0・2%、2020年はマイナス0・1%です。

水準です。

前回の私の質問に対し、市民に15分以上の時間的ロスがあることに対して、「多大な負担ではない」と答えたお上意識丸出しの部長もいたが、市民の利便性を考えない幹部は後進に道をゆずるべきではないか。

市長は質問の意味を理解していないのではないか。

市内の地価公示価格は、ここ4年間で0・7%のマイナスです。

2020年はプラス0・3%です。この期間の久米地区と市内全体の平均上昇率は、ほぼ同じで、前年比で、2017年はマイナス0・5%、2018年はプラス1・0%、2019年はマイナス0・2%、2020年はマイナス0・1%です。